

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	鉄道高架による踏切事故の解消及び駅前の歩行空間のバリアフリ化（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～令和02年度（5年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	大阪府, 岸和田市												
計画の目標	鉄道を高架化（限度額立体交差事業）し踏切を除去することにより、踏切事故の解消を図り安全かつ円滑な交通を確保するとともに、駅前の歩行空間のバリアフリー対策を実施し、安全・安心な地域づくりを実現するものである。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	23,506	A	23,493	B	0	C	13	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.05	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)
1	踏切除却することによる踏切事故確率の減少 踏切事故確率の減少 踏切数(5)の減少 = 踏切事故確率の減少(%)	40%	100%	100%
2	踏切における渋滞解消を図る。(府道岸和田港塔原線) 1日あたりの遮断時間の減少(府道岸和田港塔原線) 1日あたりの踏切遮断時間 = 【当初：H27踏切実態調査データ(府道岸和田港塔原線)】	5時間	0時間	0時間
3	踏切における渋滞解消を図る。(市道並松上松線) 1日あたりの遮断時間の減少(市道並松上松線) 1日あたりの踏切遮断時間 = 【当初：H27踏切実態調査データ(市道並松上松線)】	7時間	0時間	0時間
4	ボトルネック解消による踏切での待機時間を無くし、救命救急車両の搬送時間を短縮させる。 救命救急活動時の踏切影響の解消 救命救急活動車両が踏切通過影響を受けた件数【平成27年度実績】	2668件	0件	0件
5	駅前広場の歩行空間の整備によりバリアフリー対策率を向上させる。 駅前広場等の歩道空間のバリアフリー化率の向上 道路整備率(東岸和田駅前停車場線：東岸和田駅前東側交通広場)	28%	78%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
・(大阪府地域強靱化計画)に基づき実施される要素事業：A01-001～A01-002												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H28	H29	H30	H31	R02					
一体的に実施することにより期待される効果																					
備考																					
道路事業	A01-001	道路	一般	大阪府	直接	大阪府	都道府 県道	改築	(主)岸和田港塔原線	限度額立体交差 L=2.1km	岸和田市						16,680	2.75	-		
	A01-002	道路	一般	岸和田市	直接	岸和田市	市町村 道	改築	(他)並松上松線	限度額立体交差 L=2.1km	岸和田市						6,643		-		
	A01-003	道路	一般	岸和田市	直接	岸和田市	市町村 道	改築	市道東岸和田駅東停車場 線	停車場線 L=80m、駅前広場 A=5,000㎡	岸和田市						170		-		
												小計						23,493			
												合計							23,493		

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	C01-001	道路	一般	岸和田市	直接	岸和田市	-	施設整 備	東岸和田駅付近高架下整 備事業	駐輪場等 A=4,500㎡	岸和田市						13		-	
		迷惑駐輪等の減少、歩行者等の安全で円滑な通行の確保、街の良好な生活環境・景観の維持・向上が図られ、駅前広場等の歩行空間のバリアフリー化を図った機能がより有効に活用される。																		
											小計						13			
											合計						13			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 大阪府道路室で評価を実施	事後評価の実施時期 令和4年5月
	公表の方法 大阪府ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	鉄道高架化により既設踏切を撤去したことで踏切事故確率減少や遮断時間の減少、救命救急活動時の踏切影響の解消の目標値を達成し、事業効果が発現している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	駐輪場の整備により迷惑駐輪等の減少の効果が発現している。
特記事項（今後の方針等）	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	踏切数の減少	
	最終目標値	100%
2	最終実績値	100%
	踏切遮断時間の減少	
3	最終目標値	0時間
	最終実績値	0時間
4	踏切遮断時間の減少	
	最終目標値	0時間
5	最終実績値	0時間
	救命救急活動車両が踏切通過影響を受けた件数	
6	最終目標値	0件
	最終実績値	0件
7	道路整備率	
	最終目標値	100%
8	最終実績値	100%